

防災マニュアルの多国語翻訳の方法の説明

吉川 潔 (翻訳業)

1. 目的

新幹線や山手線などに乗ると、多くの乗客がスマホやパソコンに熱中しています。いま、インターネットのアプリとして、数社が多国語翻訳の機能を提供しています。これが、外国人の支援に役立つかどうか調べるために、防災マニュアルの多国語翻訳を試みました。

2. 概略

私は、新潟県の自宅で東京の翻訳会社から翻訳原稿を電子メールで受信し、翻訳後に返信という仕事をテレワーク (SOHO) で30数年、働いてきました。また、各社の翻訳ソフトを10数年間にわたって試訳し、関係者に発表してきました。

この翻訳経験と試訳結果から、翻訳ソフトが理解できる程度に日本語を簡略して入力すると、妥協レベルで実用可能と確信しました。ロボットは理解できる言葉で話しかけたり電気信号を送ると、スゴイ働きをすることと同じです。

但し、一つの翻訳ソフトだけの利用は、誤訳の不安があります。複数の翻訳ソフトを併用 (後述) すると、信頼性が向上します。次に、翻訳方法を説明します。

3. 方法

私が住む新潟県三条市 (人口約10万人) は、13年前の水害で大きな被害を受けました。対策として、市は防災マニュアルを作成しました。当地に外国人がいます。外国人が、災害時に周囲の人の助言にしたがって冷静に対応できるように、防災マニュアルを提案する方法に準じて、多国語 (9カ国語) に翻訳しました。

例えば、

これは本です ← → This is a book.

上記は全ての翻訳ソフトが正訳します。即ち、単純な文は翻訳可能なことを示します。

下記の文例

「風水害で犠牲になる方の多くは災害時要援護者です」は、難文で誤訳します ×

原文の趣旨を逸脱せずに簡略化 → 「災害の犠牲者の多くは身障者です」

簡略した日本文を1社の翻訳ソフトに入力 → “很多犠牲者，是残疾人” と中国語に翻訳。次に、この訳文を逆方向に和訳します。インターネットから利用できる3社と市販の2社、合計5社の中国語の翻訳ソフトを用いて和訳しました。

即ち、長文(難文)→簡略→(英訳)→中国語に翻訳→中国語→5社の翻訳ソフトで逆方向に和訳

4. 翻訳精度の判定

上記の5社の翻訳ソフトを用いて、日本語へ逆方向に和訳した時に、当初の「災害の犠牲者の多くは身障者です」の意味と、1社でも異なれば、不合格

日本文を更に簡略化して、上記を繰り返す。5社が、ほぼ一致すれば、(仮)合格。

しかし、翻訳ソフトが正訳しているかどうか全く分かりません。

そこで、翻訳対象の母国語の **n a t i v e** にチェックを依頼しました。

5. **n a t i v e** のチェック結果

簡略した日本文と英訳文と多国語翻訳文(韓国、中国、ロシア、スペイン、ポルトガル、インドネシア、ベトナム、タイ)を、各々 **native** がチェックし、妥協レベルで合格 ○

6. 問題点

- 6-1. ポイントは“日本文の簡略化”。しかし、長文を短文にして入力しただけで ○ になりません。
- 6-2. 「避難情報」のような語句を一文とみて、(情報を避難させる)と訳す翻訳ソフトがあります。
- 6-3. 試訳に用いる翻訳ソフトの種類(提供する会社)が多いほど、翻訳精度は高いと推します。一部の言語では、OEMや翻訳エンジンが同じです。実質的に2~3社です。
- 6-4. 原則として、日本語で入力しても、翻訳ソフトの内部で自動的に英訳して、多国語に翻訳します。しかし、翻訳ソフトを参考にして英訳して入力した文例もありました。
- 6-5. 中国語への翻訳が意外と難しいです。「？」を付けた文例が多いです。原因は、中国語用の翻訳ソフトに相応して、日本文を簡略化した入力文が、不十分? 中国語用の翻訳ソフトの攻

略法が未熟なためです。他の言語の翻訳ソフトの攻略も同様です。

6-6. 他にも、提起すべき問題が幾つかありますが、その説明は別の機会にいたします。

7. 結論

7-1. 理論的な裏付けは無いですが、災害や病気などの緊急時に、スマホやパソコンで翻訳サイトを利用すると、外国人の支援にヒント程度でも役立つと期待できます。

7-2. 基本的な英語力があれば誰でもできます。試行錯誤に時間をかければ攻略可能です。一人では無理。多くの人が様々な分野で応用して欲しいです。提案方法の疑問は、電話かメールで尋ねてください。その交流から、多国語翻訳の原理原則が見出せると確信します。

8. 今後の予定

今回は水害時の防災マニュアルの多国語翻訳でした。いま、日本に、多くの外国人が観光や商用や技能習得のために訪れています。そこで、観光物産店の宣伝パンフレット、駅の構内や乗り物のガイド、地震などの災害、新潟県の柏崎刈羽原子力発電所の事故対策、医療現場に役立つ多国語翻訳を予定しています。

9. 謝辞

9-1. 私は、30数年前、八王子市のIBS社の桜井社長と出会い翻訳を始めました。同氏は、翻訳原稿を電子メールで送受信する翻訳網を日本で最初に構築し、テレワーク（SOHO）という労働形態を具体化した功績者です。翻訳ソフトの試訳に協力し、25年前のAAMT設立総会で翻訳業界を代表して挨拶しました。しかし、同社は10数年前に破産し、同氏は行方不明になりました。私は、同氏に出会った縁で翻訳者として自立できました。その恩に報いるために、翻訳ソフトの実用化を目指してきました。提案する方法は翻訳ソフトの実用化に成り得ると自負します。桜井氏が何処かで元気に生きていることを願い、謝意を表します。

9-2. 30数年の翻訳稼業のなかで、翻訳会社から翻訳の仕事の御用命していただくだけでなく、翻訳技能の向上のための指導やパソコン操作の指導を受けてきました。また、AAMTが主催する様々な行事に参加して有意義な話を伺い、それに基づいて、翻訳ソフトを試訳し、シンポジウムで発表しました。翻訳ソフトのメーカを訪問し試訳結果を説明してきました。その際に、AAMTの皆様からアドバイスしていただき、そこからヒントを得て、提案方法に至ったことを、感謝申し上げます。

- 9-3. 防災マニュアルの多国語翻訳に際し、外国人を支援する行政と民間の関係者、そして **n a t i v e** のかたから協力していただきました。それだけ期待があると意気を感じ、励みになりました。期待に応えるために、今後も翻訳ソフトの実用化を手伝う所存です。